

避難訓練 評価報告書

作成日：2012年12月18日
作成者：学校法人木の実学園
木の実幼稚園
理事長 中矢謙一郎

<総評>

この度の避難訓練（12月14日）は、垣生中学校、地区自主防災会連合会、地区交通安全協議会、地区駐在所より、活動主旨にご理解とご協力を賜れたおかげで執り行えたものである。その意味において、地域の方々への感謝の意を申し上げると共に、当初の主旨を忘れず、今後も毎年行って参りたい。

避難訓練そのものは、交通事故等もなく整然と行えた。その要因はやはり避難ルート要所に地域の方々を立てて頂けたこと、また、教職員で事前にルート確認を行っていたこと、そして子どもたちへ避難についての注意点を事前に指導できていたことが挙げられる。

避難に所要した時間は、第一グループ（早便）が41分、第二グループ（遅便）が27分となった。第二グループの結果は想定（40分）より遥に早く、その要因は別途下記にて記載する。

今回の貴重な防災教育の機会に発見できたことを、来年度以降の訓練実施時に役立てると共に、参考情報としてご協力賜った関係者の方々、および保護者へ報告するものとする。

<第二グループが想定より早く避難できた要因>

- ・実際に震災に遭った際に信号機が作動するかは不明だが、信号機到達時に隊列を2列から4列に組み直すことにより、短い時間でより多くの子どもを横断させることができた。尚、引率教諭より『隊列の組み直しについては、2列歩行をしている1クラスを4列に分解するのではなく、信号機（横断歩道）に先に到達したクラスの横に次のクラスを並べる方が早く、また、横断終了後に2列の隊列に戻すことも早い。』との報告があった。次年度は、この方法を全体の方針に取り入れることとする。
- ・避難訓練中、引率教諭がある程度間断なく子どもたちに声がけを行い、なるべく急いで歩くことをしっかり意識させられた。
- ・今回、3学年のうち最年少の学年である年少児の避難について、4パターンの避難方法を試験・評価した。4パターンとは以下のとおりである。

- (1) 誘導ロープあり、教諭が先頭で引っ張る。
- (2) 誘導ロープあり、教諭が引っ張らない。
- (3) 誘導ロープなし、年少児同士で手をつなぎ歩行。
- (4) 誘導ロープなし、年長児とペアになって手をつないで歩行。

この内、(4)のパターンの場合が最も整然と、又、早く歩行できることが確認された。一方で、誘導ロープを使った場合に以下の問題点が浮かび上がった為、次年度以降は誘導ロープを採用しないものとする。

- (a) 靴が脱げた場合に全体が止まる。
- (b) 一人ひとりの歩行速度が違うのに、持ち手のピッチ（間隔）が一定であるため、歩行そのものが難しく、また後ろから来る子どもが前を歩く子どもの靴を踏む現象が確認された。
- (c) 転倒した場合に、その前後の子どもたちが必要以上に影響を受ける。

最も良いと評価された(4)については、引率教諭より「年長児が引っ張っていきこうとする意志があり、年少児の歩くペースを速める効果があった。」「園外保育時等に行っている、年長と年少のペア歩行が役に立っていると考えられる。」年長児が、年少児を助けてあげようとする意志が芽生えるきっかけになった気がする。」という指摘があり、次年度以降は(4)の方法を採用することとする。

<その他報告事項>

- ・デイリーヤマザキ前からミスタータイヤマン前にかけてのルートの一部に、水路に転落の可能性がある箇所があり、避難中に教諭から子どもたちへ声掛けを行う重点箇所として、来年度の手引きへ掲載することとした。
- ・実際に震災に遭った際にも起こり得ることだが、路面の凹凸は子どもたちや車椅子にとって、つまづく原因となる。わずかな段差が確認された箇所について、避難中に教諭から子どもたちへ声掛けを行う重点箇所として、来年度の手引きへ掲載することとした。

(以上)